

銅賞

型取られる都市 -壁が伝える銀座の記憶-

慶応義塾大学 システムデザイン工学科
名前 大西 慶太郎



設計主旨 concept

戦後、縦へ縦へと建てられたビル群は隣との距離が近いのにも関わらず横の関係が希薄なものとなりビル同士が孤立してしまった。江戸から続く町割の上にビルが立ち並ぶ日本の商業の中心地、銀座では大規模再開発により歴史的な街の記憶が失われていく。

「都市を型取る」

高密度な都市に埋もれた隙間に壁を立ち上げる。そこにスラブが寄生し様々な高さの自由な横の繋がりを作り出す。

これは忘れ去られた都市の記憶を壁が紡ぎ、未来へと受け継ぐ新たな都市のヴァナキュラーの提案である。

大規模開発によって銀座の一街区分を建て替える際に、まちの骨格が失われることに対するアンチテーゼである。既存の建物と建物の間にコンクリートを流し込んで新たな躯体を作り、既存建物を解体するという奇想天外なこの案は、審査では小説の世界みたいだという意見もでた。床面積が少なく、銀座という地価の高いコンテキストに対する回答としての説得力に欠けるという意見も出た。学生だから提案できることをしたかったと大西君は言っていたが、社会に出てからも現実の条件を受け止めつつ、持ち前のパワーですごい提案をして欲しい。

(講評 保坂 猛)